



2025年2月28日発行



今回の紙面から（内容とページ）

会長挨拶	1
第18回国際春季フォーラムのご案内	2
第43回大会のご案内	2
大会優秀発表賞審査結果報告	2
(Student) Workshop の企画募集	3
被災された方の会費免除のお知らせ	3
終身会員の登録申請について	3
理事会より	4
編集委員会より	4
大会運営委員会より	5
広報委員会より	5
学会賞委員会より	6
日本英語学会2024年度収支中間報告書	6
言語系学会連合について	7
人文社会科学系学協会における男女共同	
参画推進連絡会（GEAHSS）について	7
事務局より	8

会長挨拶

会長 西岡 宣明

新年になり、インフルエンザが猛威を振りましたが、皆様がお元気であることをお祈り申し上げます。

本年度は5月25日・26日に京都大学で開催されました第17回 SF に続き、11月23日・24日に無事に名古屋大学で第42回大会が対面で開催され、コロナから完全に脱却できました。また、今大会でも、コロナ禍で得た知見を取り入れ、開会式と公開特別シンポジウム、ならびに特別講演を対面とズームでのハイブリッド方式で行いました。特に今回は言語系学会連合との共同開催による公開特別シンポジウムでしたので、より多くの方々にご参加いただきました。今回も昨年同様に、Conference Handbook を廃止して、電子媒体によりハンドアウトを配布することで経費の節減ならびに事務負担量の軽減を行いましたが、特に問題

はなく、研究発表・シンポジウム、およびワークショップも充実した内容で滞りなく行われました。2日間にわたる大会を通して対面で340名程度、オンラインで70名程度の参加者があり、優秀発表賞（佳作）3件の授賞がありました。懇親会も約150名の方々にご参加いただき、活気溢れる会となりました。SF、年次大会ともに開催校委員、大会運営委員、事務局の方々の多大なご尽力により無事に終えることができました。皆様に心よりお礼申し上げます。

なお、第18回国際春季フォーラムは、すでにホームページで案内されておりますように、2025年5月17日・18日に成城大学で開催されます。また、11月の第43回大会につきましては、九州大学（伊都キャンパス）で現地開催される予定です。

学会賞関係では、本年度も誠に残念ながら受賞者がでませんでした。学会賞は、学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞の3部門があり、本年度は学会賞（著書）への応募はあったものの、最終審査通過とならず、学会賞（論文）、新人賞への応募はありませんでした。学会賞（論文）、新人賞は、機関誌 *English Linguistics* (EL) に論文が掲載され、論文賞を受賞することが応募の条件ですので、この点を鑑みて理事会で議論し、EL 論文賞はその年度の EL に掲載された論文の中での最優秀賞であるという位置づけを再確認いたしました。会員の皆様、ぜひ奮って EL に投稿され、EL 論文賞、さらには学会賞の受賞を目指してください。

また、理事会関係では、科研再取得の可能性と内閣府が提起した学術論文の即時オープンアクセスを求める動きへの対応も検討を続けております。

早いもので、私の会長職の任期は今年度一杯で終わります。事務的には、電子手続きの拡充や大会投稿規定の改定などを関係委員会、事務局主体で行ってきましたが、私自身はたいした仕事はできなかったという思いが残ります。ただ、学会の維持と、学会の将来に対する危機意識、そしてできれば希望をもし少しでも会員の方々と共有できたのならよしとさせていただきます。

顧問の先生方には頼りない会長を温かくお見守

りいただき、理事、各委員の先生方には多くの時間と労力をいただきました。心より御礼申し上げます。また、手前味噌ながら、前田事務局長をはじめとする事務局員は全員、私の下で博士号を取得した教え子たちです。最も研究に時間を費やしたい時期に献身的に働いてもらったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

4月から渡辺会長の下で新事務局が発足いたします。私は、もう一年副会長として残りますが、少しでも渡辺先生のお役に立てることを願っております。会員の皆様には渡辺新体制での本学会の発展のため、今後ともご協力と積極的なご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

第18回国際春季フォーラムのご案内

第18回国際春季フォーラム（SF18）は次の通り開催されます。

日時：2025年5月17日（土）・18日（日）

場所：成城大学

〒157-8511

東京都世田谷区成城6-1-20

プログラムやハンドアウト等については、後日学会ウェブサイト（<http://elsj.jp/about-the-elsj-spring-forum/>）にアップロードします。

今年度の第42回大会と同様、SF18への参加を希望される方は、オンラインで事前登録をさせていただきます。なお、事前登録及び大会参加費のお支払いに関する詳細は、4月中旬に学会 HP に掲載予定の「SF18オンライン参加登録について」をご覧ください。

なお、最新情報につきましては、随時、学会ウェブサイトにて更新いたしますので、ご注視いただけますようよろしくお願いいたします。

第43回大会のご案内

第43回大会は次の通り開催される予定です。

日時：2025年11月8日（土）・9日（日）

場所：九州大学 伊都キャンパス

（〒819-0395 福岡市西区元岡744）

また、第40回大会より EasyChair（発表要旨の応募をオンライン上で行うシステム）を導入しております。それに伴い、研究発表とワークショップの応募については、応募者自身が EasyChair に登録する必要があります。詳しい応募方法につきましては学会 HP（<https://elsj.jp/meeting/>）をご覧ください。会員の方は奮って研究発表にご応募ください。応募締切は2025年4月1日（火）23時59分です。応募の際は、学会ウェブサイト「研究発表応募規定」欄（<https://elsj.jp/meeting-kitei/>）掲載の同規定をご確認ください。なお応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守していただきますようお願いいたします。

大会優秀発表賞審査結果報告

第42回大会の大会優秀発表賞について、審査希望者を対象に査読段階の点数による一次審査と、大会当日の発表に対する二次審査が行われました。審査結果については、12月に開催された大会運営委員会で審議され、尾野理音氏（名古屋大学大学院）「Noun-after-Noun 表現の歴史的発達」、末永広太氏（九州大学大学院）「インターフェイス条件による主語の移動制約」、村岡宗一郎氏（日本大学）「I saw them to be obnoxious. の容認可否性について」に優秀発表賞佳作を授与することが決まりました。

尾野氏の発表は、近代英語期以降の網羅的なコーパス調査に基づいて先行研究の観察を更新した点、またその観察を説明する説得力のある分析を提示した点が高く評価されました。ハンドアウトでは論旨を分かりやすく示し、聴衆が議論を追いややすくする工夫がなされていました。また質疑応答では、現時点で何が明らかで何が分かっていないかを明確に示しながら受け答えがされていました。他方、今後の課題として、近代英語期と比べて古英語・中英語期のデータが十分でないため、MED なども用いて追加調査するのが望ましい点、本研究で Jackendoff (1997, 2008) の3部門並列構成分析を採用している必然性を明示することが望ましい点、N-after-N の発達が英語の名詞句構造全体の発達史の中でどのように位置づけられるのかを考えていくと、言語理論への貢献が深まると期待される点の3点が指摘されました。

末永氏の発表は、近年のラベル理論に基づいて、主語の wh の移動にかかる制約をインターフェイスの観点から明らかにしようとすることを目的とした発表でした。研究の方向性を明確に示し、それを支持する議論を経験的な言語事実に基づいて展開していました。発表時間が多少超過したものの、全体としてよくまとまっており、大変わかりやすい発表と評価されました。また、フロアからの質問にも丁寧な答えていました。ただ、審査委員からは、Who do you like? のような目的語の wh 疑問文をどのように扱うのか、といった、発表の中では明らかにされなかった、いくつかの重要な論点の指摘がなされました。分析の細部においては、今後さらなる精緻化が必要であるとは思われますが、ラベル理論の今後の発展に寄与する可能性も期待できます。

村岡氏の発表は、時間に対して内容が多く早口に感じられる部分もありましたが、全体的に発表は明晰であり、質疑応答においてもはきはきと受け答えがなされていました。また、内容面では、先行研究を網羅的に調べた上でリサーチクエスチョンを適切に設定し、大規模な言語資料を基に新規性のあるデータを提示しながら丁寧に議論を進めていた点が評価されました。一方で、調査範囲が狭すぎる点、先行理論（大補文推移）への結びつけ方が強引に感じられたこと、主張に独創性があり見られなかったこと等が問題点として挙げられました。

(Student) Workshop の企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第43回大会では、大会日程中の土曜日の午前9時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。企画・運営をご希望の方は、学会ウェブサイト「秋季大会ワークショップ」欄 (<https://elsj.jp/workshop/>) 掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2025年4月1日(火) 23時59分までに**、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙(Excel ファイル)を送信してください。

被災された方の会費免除のお知らせ

震災・大雨・台風などの自然災害により被害を受けられた皆様、日本英語学会よりお見舞い申し上げます。

学会ウェブサイトでご案内しておりますように、国内で発生した自然災害により被害を受けられた会員の方につきましては、その災害が起こった年度、またはその翌年度の会費を免除する制度が適用されます。学会では特に災害は指定せず、会員ご本人の申請によって事務局で会費免除の手続きを行います。

また、会員ご自身の被災だけでなく、会員が生計を支援している方や会員の生計を支援されている方が被災された場合も対象となります。なお、当該年度に入会される方についても、該当される方は会費を免除いたします。

詳細につきましては、学会ウェブサイトの「各種手続き・お問い合わせ」をご覧ください。

免除を希望される方は、上記サイトにあるファイルをダウンロードしてご記入の上、学会事務局までメールに添付してお送りください。(elsj-info@kaitakusha.co.jp)

* 申請は随時受け付けます。

* 申請時においてその年度の会費が納入済みの場合は、次年度の会費に充当させていただきます。

* 既に申請時の年度の会費を納入されていて、特に返金をご希望される場合は、上記のファイルにその旨をご記入ください。

ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会員会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページにある「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。登録期間

外のご申請はご遠慮いただけますよう、お願い申し上げます。

理事会より

◇ 訃報
本学会の理事、評議員、編集委員をおつとめになられた今井邦彦先生（東京都立大学名誉教授）が2025年2月8日にご逝去されました。今井先生は、日本における言語学研究をリードされたことはもちろん、本学会の活動と発展のためにも多大なご尽力をくださいました。これまでの長年のご貢献に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

◇ 会長選挙と理事選挙
2025年度は、会長選挙と理事選挙が行われます。選出された会長候補者にはまず2026年度に副会長を務めていただき、その後2027年度より2年間会長を務めていただくことになります。また、理事候補者には2026年度より4年間理事を務めていただくことになります。

◇ 「助成金」の運用
2018年度に創設された2つの助成金である「学生会員発表助成金」と「市河三喜研究助成金」が、2019年度から運用されています。詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 会計
2024年11月22日に名古屋大学東山キャンパスで開催された理事会と評議員会において、日本英語学会2024年度収支中間報告が承認されました。中間報告書（通常予算用）は本ニューズレターの6ページから7ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動
大会運営委員長（退任）
杉村美奈氏（立命館大学）が2024年12月14日付けで退任されました。1年間、大会運営委員会の運営にご尽力くださり、誠にありがとうございました。

大会運営委員長（就任）
三上傑氏（大東文化大学）が2024年12月15日付けで就任されました。任期は1年間です。

◇ 会員数の変動について
現在の会員数は1137名（2025年1月17日現在）です。内訳は、学生会員42名、通常会員878名、維持会員112名、海外会員10名、終身会員79名、賛助会員16団体となっております。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第41巻（2025年春号）の刊行予定について
EL 第41巻（春号）は2025年3月に刊行される予定です。Article 2編、Notes and Discussion 1編、Review Article 1編、Invited Article 1編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第41巻（2025年春号）の応募論文について
EL 第41巻に投稿された論文の総数は11編で、Article 7編（Syntax 7）、Notes and Discussion 4編（Syntax 1, Syntax/Linguistic Typology 1, Descriptive Grammar/Discourse Analysis/Pragmatics 1, Second Language Acquisition 1）でした。慫慂による Review Article 2編（Language Acquisition 1, Morphology/Lexicology/Semantics 1）でした。また、Invited Article は2編（Lexical Semantics/Cognitive Linguistics 1, Syntax/Linguistic Typology/First Language Acquisition 1）でした。

以下の表は、Article 7編、Notes and Discussion 4編、慫慂による Review Article 2編、Invited Article 2編の応募からなる *EL* 第41巻の審査結果です（2024年12月22日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	7	2	5	0	0
N&D	4	1	3	0	0
RA	2	1	1	0	0
INV	2	1	0	0	1
合計	15	5	9	0	1

◇ 2024年度 *EL* 論文賞について

2024年度 *EL* 論文賞について、2024年4月1日締め切りの *EL* 第41巻に投稿されて採用となったAR2編を対象として、現在、分野別一次審査が行われています。審査対象となった論文の分野はSyntax2編です。

◇ *English Linguistics* 第42巻（2026年春発行）への投稿について

2026年3月発行予定の *EL* 第42巻への応募はEditorial Managerにより随時受け付けております。なお、応募締め切りは、2025年4月1日24時を予定しております。応募される方は、学会HPにて投稿規定および書式に関する注意事項をご確認いただき、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ preprint の公開について

EL への投稿原稿 (preprint) を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

（委員長）三上傑氏

（副委員長）堀内ふみ野氏

（委員）縄田裕幸氏（国際春季フォーラム実行委員長）、安原正貴氏（国際春季フォーラム副実行委員長）、菊地翔太氏、熊谷学而氏、香本直子氏、森田千草氏、菅野悟氏、野中大輔氏 [以上留任]、小田博宗氏、木村博子氏、水谷謙太氏、三好暢博氏、山田彬堯氏 [以上新任]

◇ 第43回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号のニューズレターでお知らせします。

◇ *JELS* 42について

JELS 42は電子版のみで作成され、学会ウェブサイトに掲載されます。3月末公開を予定しております。なお、*JELS* 37より、希望者には、リポー

トとして、ワークショップとシンポジウムに加え、特別講演も掲載することにしております。ただし、ワークショップやシンポジウムと同様に、「論文」ではなく「報告」としての扱いとなります。*JELS* 投稿用の原稿サンプル等を改定し、ウェブサイト (<https://elsj.jp/jels/jels-kitei/>) に掲載していますので、ご投稿の際にはご一読ください。

◇ 第42回大会の報告

第42回大会は、2024年11月23日(土)・24日(日)の両日、名古屋大学東山キャンパスにて開催されました。本大会では、ワークショップ2件、シンポジウム4件、特別講演3件、研究発表18件が行われました。参加者数は、1日目は208名（別途、ハイブリッド公開部門のオンライン参加者は70名程度）、2日目は130名でした。書籍展示では、18社に参加いただきました。関係各位のご献身ならびに参加された諸氏のご協力により開催できたことに対して、心より御礼申し上げます。また、Google Formsにて大会運営に関するご意見を伺いました。貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

◇ 「親と子の部屋」について

第43回大会も現地開催で行われる予定ですので、「親と子の部屋」も設置する予定です。詳細は、今後学会ウェブサイトでお知らせします。

広報委員会より

◇ J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）での *EL* オープンアクセス化に向けた作業について

EL は原則として刊行の2年後にJ-STAGEにて電子ジャーナルとして公開しており、現在までに *English Linguistics* 第38巻第2号まで公開が完了しています。なお、これからは、*EL* の電子化が刊行から1年後となりました。今後も、担当委員により1号ずつ公開作業を進めていく予定です。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj/-char/ja/>

◇ *EL* 刊行と同時の電子化について

学会ウェブサイト (www.elsj.jp) に設置されている *English Linguistics Online* に第40巻まで公開が完了しています。ダウンロードは会員に知らされた ID・パスワードによって可能です。以下の URL をご参照ください。

https://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

◇ 公式 X (旧 Twitter) について

日本英語学会の公式 X (旧 Twitter) アカウントでは、公式サイトの新着情報を中心に、情報発信を行っております。アドレスは以下の URL となります。https://twitter.com/PR_ELSJ

学会賞委員会より

◇ 2024年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞では、学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞の3部門で応募を受け付け、審査を行っています。今年度の選考は、2024年度学会賞委員会（岸本秀樹委員長、早瀬尚子副委員長、本間伸輔編集委員会委員長、漆原朗子編集委員会副委員長、前田雅子事務局長）のもとに実施されました。2024年4月1日から4月15日の応募期間内に、学会賞（著書）に著書1編の応募がありました。学会賞（論文）と新人賞への応募はありませんでした。

学会賞（著書）の1次審査は5月上旬から8月中旬にかけて行われました。慎重な審査を行った結果、1次審査通過の目安を超える応募著書はありませんでした。その後、2024年8月26日（月）～9月2日（月）の期間に開催した学会賞委員会での審議・承認を経て、2024年度日本英語学会賞（著書）の授賞を見送ることになりました。選考結果は2024年11月23日（土）に開催された日本英語学会第42回大会の総会において報告されました。また、本選考結果は *EL* 第41巻に掲載される学会賞委員会報告に記載されます。

活動しました。委員長は西岡宣明会長が務め、事務局は田中公介氏（産業医科大学）と林愼将氏（南山大学）が務めました。本年度の主な活動は以下の通りです。

まず、2024年6月15日（土）10:15-11:30に、2024年度の第1回言語系学会連合運営委員会がオンライン（Zoom）で開催されました。主な議題は、(i) 2024年度の運営体制、(ii) 2023年度の活動報告・決算、(iii) 2024年度の活動・事業計画・予算、(iv) 2024年度共催事業の追加募集、(v) 意見交換会の開催場所・日時、の5点でした。

次に、2024年7月27日（土）10:00-11:30に、言語系学会連合第14回（2024年度）意見交換会がオンライン（Zoom）で開催され、39加盟学会のうち23学会が出席しました。主な報告内容は、(i) 言語系学会連合役員と運営体制、(ii) 加盟学会について、(iii) 言語系学会連合の2023年度活動について、(iv) 言語系学会連合の2023年度決算について、(v) 言語系学会連合の2024年度活動（案）、(vi) 言語系学会連合の2024年度予算（案）、(vii) 2024年度共催事業の追加募集について、の7点でした。意見交換の主な議題は、(i) 内閣府のオープンアクセス政策に対する各学会の対応について、(ii) 言語系学会連合「協賛・後援」制度の活用法について、(iii) 各学会事務局の外部委託に関する学会運営について、の3点でした。

そして、2024年11月23日（土）に、言語系学会連合2024年度公開シンポジウム「人（ヒト）の言葉を育む力」が名古屋大学東山キャンパスにて、対面とオンライン（Zoom）の同時開催で実施されました。

言語系学会連合の詳細と加盟学会の活動予定等については、下記のウェブページをご覧ください。
<https://uals.net>

人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について

ギース7期 第2回運営委員会が2024年9月16日にオンラインで開催され、第8期（2024年10月1日～2025年9月30日）の委員長に松永美希氏（日本認知・行動療法学会）、副委員長に山野則子氏（日本社会福祉学会）が選出されました。また、監事に西村賀子氏（日本西洋古典学会）と嶺崎寛子氏（日本文化人類学会）が選出されました。な

言語系学会連合について

日本英語学会は、2024年度は委員長学会として

お、委員長が所属する日本認知・行動療法学会を幹事学協会とし、副委員長が所属する日本社会福祉学会を副幹事学協会とすることが承認されました。

ギースは、人文社会科学分野におけるジェンダー平等に向けての要望を政策提言として積極的に発信しており、2024年9月2日には、院内集会「人文社会科学系アカデミアにおける、女性研究者と次世代養成に関する意見交換」を、国会議員や関係省庁の担当者、一般参加者などを交えて開催し、活発な意見交換がなされました。また、5年に一度実施する「人文社会学系研究者の男女共同参画実態調査」の第三回調査メンバーの募集は、2025年1月に締め切られました。

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2025年1月17日現在の会員総数は1137名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入してくださいませよう願います。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。3月－4月入会者でELや秋大会での審査をご希望の方は、4月10日までに(elsj-info@kaitakusha.co.jp)まで、氏名・会員番号・希望会員種別を明記しご連絡ください。その後、事務局より銀行振込先の情報をお送りいたしますので、4月末までに会費納入をお願いいたします。4月末までに会費が未納の場合は、その時点で会員とみなされず、審査対象となりませんのでご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2025年度に学生会員として登録（2024年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2024年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。特に年度末の2月、3月に学生

会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いします。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。

ただし、学生籍を持つ者であっても、専任の勤務を持つ者は対象とはなりません。

②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生

・申告期間：2025年4月1日～4月25日

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称・現住所をメール本文に明記し、学生であることを証明するに足る下の（１）－（４）のいずれかの書類を添付して、事務局宛(elsj-student@kaitakusha.co.jp)に「新規／継続・学生会員登録希望」の件名をつけ、メールにて送付してください。

（１）在学する学校の発行する在学証明書

（２）学生証のコピー

（３）進学する学校・課程の合格通知書のコピー

（４）（元）指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、（４）の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局宛(elsj-student@kaitakusha.co.jp)にご連絡ください。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご確認ください。

◇ JELSへの論文投稿に関するお願い

JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ウェブサイトに掲載されております「JELS投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信

メールアドレスに送信されても受理できません。

◇ *EL* への論文投稿に関するお願い

EL に論文を投稿される際には、日本英語学会ウェブサイトに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

JELS や所属機関の working papers 等に掲載された研究（の一部）を発展させて *EL* に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用下さい。

◇ *EL* 掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL* に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に *EL* に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ *JELS* 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL* 掲載の論文と同様に、事前に事務局までお申し出下さい（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。

JELS 掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。なお、*JELS* 37以降に関しましては、刊行当初からオンライン上でのフリーアクセスとしたので、再録や学術レポジトリなどへの掲載は自由となっています。

◇ *EL* 公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で *EL* を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。*EL* がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくをお願いいたします。

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、*EL* への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常一週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ 終身会員の大会参加にあたってのお願い

終身会員におかれましては、大会ご参加時の受付にて、終身会員カードをご提示いただき、自ら終身会員である旨お申し出いただけますよう、お願いいたします。受付にはアルバイトの学生が多く協力してくれていますが、終身会員のお名前を存じ上げない場合が多く、特に混雑時にはなかなか配慮が行き届かないため、ご協力をお願い申し上げます。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会ウェブサイト「各種手続き・お問い合わせ」ページ（<https://elsj.jp/inquiries/>）の会員登録情報自己管理オンラインシステム（マイページ）にて変更手続きを行っていただくか、学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

編集後記

少しずつ日差しが春めいてきました。2年前の春に事務局業務を引き継ぎ、微力ながらも学会のスムーズな運営と会員の皆様の利便性の向上のために会員の電子手続きの拡充や大会投稿規定の改

定などを行ってきました。また、コロナ禍を経て、
久々の対面学会を開催しましたが、オンライン開
催のノウハウを活用し、ペーパーレス化や一部ハ
イブリッド開催を進めてまいりました。その中で
至らぬ点も多々ありましたが、英語学会運営のた
めに多くの時間と努力を費やして下さった事務局
・各委員の先生方のご尽力のおかげで、さら
には、対面学会にご参加いただき、大会を盛り上
げて下さった多くの会員の皆様のお力添えのお
かげで、何とか2年間の任期を無事終えることが
できました。心より感謝申し上げます。

新年度からは、渡辺明新会長の下、以下の新事
務局が立ち上がります。

葛西 宏信（青山学院大学）[事務局長]

中尾 千鶴（東京大学）[編集委員会担当]

稲田俊一郎（明治薬科大学）[編集委員会担当]

猪熊 作巳（実践女子大学）

[大会運営委員会担当]

三山美緒子（明治薬科大学）

[広報委員会・国際春季フォーラム担当]

菅原 彩加（早稲田大学）[財務・理事会担当]

塩原佳世乃（東京女子大学）

[学会賞委員会担当]

加藤 孝臣（上智大学）

[評議委員会・事務局長補佐担当]

新事務局へのご支援をどうぞよろしくお願いい
たします。 (M.M.)

2025年2月28日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 西岡 宣明

発行所 日本英語学会
<https://elsj.jp/>

〒112-0003

東京都文京区春日2-13-1

芳文堂ビル6F 開拓社内

電話 (03) 6801-5651
